

全国から届いたニュースを発信！ ポジティブな視点をはぐくむメディア



奇跡のタイミング

20歳の記念。

家族の記念。

記念日はいくつあっても嬉しいものです。

縁あって、素敵なご家族を撮影させていただきました。

20歳の息子が、厳しい訓練を耐え抜いて念願のプロボートレーサーに！娘が希望校に合格し、晴れて高校1年生に！

同時期に我が子2人が新しい制服に身を包んだ姿を見て、こんな奇跡のタイミングはなかなかない！と家族での記念写真を撮影しようと思ったそうです。

真夏の暑い日でしたが、そんなことを感じさせない、みんなでワイワイ笑いつぱなしの時間。

お子様たち2人の真っ白な制服が清々しい心をも表すようで、カメラにはご家族の笑顔があふれていました。

家族でちゃんと写真を撮ったのは初めてなの。と、奥様は笑いながら話してくれました。これもまた、素敵な記念日になりました。

写真は、一瞬が永遠になる。

どんな瞬間も誰かにとっては特別なものかもしれない。これから人生の奇跡の瞬間がたくさんあるといいな。陰ながら応援しています。

(東員町・鈴木歩・40代)

夏休みの
おもいで
絵日記

大ざわのおまつりで、たいことかねをたたきました。山車をはじめてみて、大きくてびっくりしました。

たくさんれんしゅうしたので、じょうずにたたけうれしかったです。らい年は、もっとじょうずにたたけるようになりたいです。

(稲部小学校・1年生・小林はるき)

▶かっこいい！ いまかられんしゅうしておけば、らい年はカンペキかも！



今日、一人でおかざきのばあばと、じいじに会いに行きました。夜、花火大会があるからです。

ひさしぶりに一人でおとまりするの、ドキドキな気もちでもあるし、ワクワクもします。昼、おかざきのイオンモールで、ゆかたを買ってもらいました。とてもかわいいゆかたです。コロナウイルスがなかったら、本当は出店があります。ゆかたで出店行きたかったなあ。ごはんをたべてからマンションのおくじょうで、花火を見ました。とてもきれいでした。ぜったいらい年も見たいです。

たまやー！

(稲部小学校・2年生・ふるたに光)

▶らい年は、出店も花火も、りょう方とも、ゆかたで楽しめるといいね！

稲部小学校のみなさんから、夏休みの絵日記が届きました！

全部お見せしたいところですが、たくさんあるのでここでは一部だけをご紹介します。

でも、みなさんのきらきらした夏のおもいでを、新聞社にだけしまっておいたのでは、あまりにもったいない……。

そこで、グッドニュース新聞号外『夏休みのおもいで絵日記』として、期間限定で配布と掲示を行なうことにしました。掲示分は5か所それぞれでちがう絵日記が見られますので、ぜひぜひ回ってみてくださいね！

【掲示場所】東員町総合文化センター、東員町役場、

東員駅、中部公園、イオンモール東員

【配布場所】東員町総合文化センター、東員町役場

【実施期間】10月7日(金)～31日(月)

* 配布については在庫が尽きたため、早期終了の場合はご了承ください。



Yukihiro Nomura



Toshio Mizutani

祝10周年記念 東員ミュージカル大特集！

2013年の第1回以来、『天高く馬跳ぶ春』、『ナローはつづくよどこまでも』、『OH！MY GOD.』、『ザッツ!! 東員Musical』、『天高く馬跳ぶ春（再演）』、『ぼくらは田んぼで生きている』、『あした大空』、『Go Toミュージカル』、『It's a Wonderful World』と公演を重ねてきた東員ミュージカル。2022年、節目となる第10回公演『碧の向こうへ Homage for SADAYA ISHIGAKI』を目前にひかえ、東員ミュージカルのこれまでとこれからについて、水谷俊郎町長と野村幸廣プロデューサーにたっぷり語ってもらいました。

MEET THE ミュージカル

水谷 ミュージカルは若いころに数本、ニューヨークで観たことがあって、すごいとは思ってたけど、正直そこまでの感動というのはなかった。言葉の問題もあるのかもしれませんが。

それからずいぶん経って、四日市の方に誘われて野村さんの『OH！MY GOD.』を観にいったんです。そうしたら、「ええっ、ミュージカルってこんなか！ すげえなあ！」と感動して、それまで持っていたイメージがまるっきり変わった。それからは毎年、四日市に観にっていました。

あるとき野村さんとお会いしてお話をした際に、今年は抽選ではずれて大きな劇場がとれず、小さいホールで開催すると聞いて、驚きました。あれだけのミュージカルなら最優先でやるべきじゃないかと。そのころには東員町の町長に就任していたので、うちでやりませんか、東員町なら第一優先しますよ、と声をかけました。

野村 うちの町でもぜひ、ということと言われることは多いんです。でも実際に声がかかることはあまりないので、驚きました。

水谷 東員町での初公演は、充分に認知を広げられなかったこともあり、定員700人に対して半分の入りでした。そのとき教育長が、東員町の話を書いてもらえないかと相談したんです。ちょうど野村さんのなかでも構想のひとつに大社祭があったので、それならと大社祭を題材にした『天高く馬跳ぶ春』が動きだした。これが「東員ミュージカル」としての第1回になりました。

声高く賛辞飛ぶ秋

水谷 前回の反省もあったので行政としても一生懸命告知して、東員町の若い人にも声をかけて、舞台への参加をお願いして回って。結果、役場の職員も5名参加してくれて、いなべ1300年祭のイベントに重ねてミュージカルを開催できました。

野村 職員の方が参加してくれたのは大きかったです。それも20代の男性たちが。それはすごいよかったし、ありがたかった。なにしろアウェー感が半端なかったですから（笑）。彼らはいまでも手伝いにきてくれて、ベースを支えてくれています。

水谷 『天高く～』の公演後、舞台がおもしろかったと噂が広がったんです。「もうやらないのか？ 観たかった！」といった声をたくさんいただきました。もう、ものすごい反響で。しぶしぶ観にきた僕の同級生たちも、「いやあ、よかった！ 来年もやるんだろう？ ぜったい呼んでくれよ」と大絶賛で、彼らも最初は数名だったのが次の年は10名を超え、最大で20数名が来てくれるまでになりました。口コミで広がっていったんですね。

その『天高く～』を第5回で再演してもらったとき、全3回の公演が人でいっぱいになって、これで名実ともに文化が根づいたなと感じました。

野村 続けていくうちに、芝居が終わってお客様を送り出すときの反応や握手の強さが徐々に変わってきたんです。「次も楽しみにしとるよ」といった声もいただけるようになった。もともと反対していた人もだんだん認めてきてくれることが、公演を重ねるごとに身を持って実感できましたね。

テーマは東員町で生きている

野村 テーマ探しは町の魅力を発見していくことにもつながるので、苦労もするけど面白味があります。

今回、石垣定哉さん取材して学んだことがあって、定哉さんは東員の方やのに、多度山を描いて総理大臣賞をもらった。多度山は確かに近くにあるけど、たぶん東員町の人たちはあまり意識することがないと思う。むしろ鈴鹿の山を意識している。だからこそ、定哉さんの視点は素晴らしいと思いました。つまり発見というのはそういうことなんやなと。

水谷 僕らも鈴鹿山脈を見ながら育っている意識はあるけど、多度山を見て育った意識はないな（笑）。

野村 今回、1曲目の歌に多度山の名前をぜったい入れようと思って。それで「多度山は柔らかく笑う」って歌詞を書いたんですけど、それはなにが言いたいかというと、見えてるものが見えてないなど。これだけ東員町に来させてもらっているけど、いつも見えてる多度山を見てなかった。それを定哉さんから教わった。

そうした視点で新しい東員町を発見していけたら、すごい作品にもつながっていくし、それは僕自身、楽しみなことでもあります。グッドニュースもそうじゃないですか、視点を変えると苦しかったことが楽しく見えてくるなって。これはすごく大事やなと思って。

舞台はつづくよどこまでも

水谷 ここまで続けてきて、もうこれは東員町の文化になったと実感しています。せっかくここまで育てた文化を続けない手はないでしょう。

最初は「東員町でミュージカル？」と首を傾げられました。それが認知も広がって、東員ミュージカルでこそ伝わるものがある、だから価値があるのだと、わかってもらえるようになった。いまでは近隣だけでなく、東北や九州からも足を運んでもらえるようになって、すっかり定着したと感じています。たとえ題材を東員町にかぎらなくても、この東員町でミュージカルをやるということが、町の文化として必要だと思うんです。

野村 僕が言うのも変だけど、東員ミュージカルはよそのミュージカルよりも質が高いと思います。個々のレベルが高い作品づくりをしてこれたかなと。プロと比べるとどうか、それはまた違う話なんやけど、これは自慢できることのひとつです。つくったものをそのままどこか回ってお見せできるぐらいのレベルにしたいと思って、いつもつくっています。

水谷 クオリティー、高いと思いますよ。僕が死んだあともミュージカルが開催されていることが理想ですね。「あいつ死んだけど、ミュージカルだけはちゃんとやっとなあ」と言ってもらえたら本望（笑）。

野村 ゆくゆくは僕じゃなくても、いいかたちでミュージカルが続いていたら素敵だなと思います。のさばろうとは思っていないので、たとえばいま大学生の子が「私やりたいんです」となっても、それはすごいおもしろい動きだし、そうなっていったら最高ですね。

そういう意味でも、冬に子どもだけのミュージカルをやろうと進めているんです。未来の東員ミュージカルを支えてくれる子を……。

水谷 養成する場となるような。

野村 どうしても舞台の質が高くなってくると、「わあ、素敵！」と「やってみたい！」が別物になってくるんですよ。大好きとやりたいがイコールだったのが、だんだん「大好きだけどやらない、やれない」となってきて、オーディションに1人しか来ないなんてこともあった。

だから小学生、中学生対象のワークショップ的にやって、最後は舞台上げちゃおうって。いまやっていることのジュニアクラスみたいになるのかな。これはすごくおもしろい試みになると思います。

水谷 できれば演出の後継者もつくってほしいですね。

野村 （笑）。





伊井美智子

いまのこの世の中で、舞台がいかに人に力を与えられるかということを、ここ数年あらためて実感しています。舞台から人に伝えられることって、小さいもので、じつはものすごく大きなもの。石垣定哉さんが描いた色彩豊かでエネルギーに満ちた絵画という芸術を、ミュージカルという異なる芸術で表現することで融合させて、さらに大きな力としてお届けします！



今井喜美子

毎年そうですが、今年はコロナに感染したこともあり、あらためて本当にありがたいところ自分たちがいさせてもらっているのだと感じています。観てくださった方から「元気をもらった」とか「一歩前に進める勇気をもらった」とか、うれしいお声をいただくんですが、本当はこちらが元気をもらっているんです。そんなあたたいお客さんや仲間たちがいるからこそ、みんなで一緒になかができるんだっていうことを、舞台から伝えたいです。



岡田さち

コロナ禍の中、観にきてくださるお客様も大きな負担を背負います。なのに、観たいという気持ちで来てくれる。ありがたいと言ってくださる。誰かに感謝されるようなことを舞台の上から伝えられるなんて、すごく幸せだし、こちらこそありがたいの気持ちでいっぱいいます。



賀数彩花

去年、初めて舞台に立って、お客さんに観てもらえたこと、友だちからのよかったという感想がうれしかったです。今年もがんばります！



賀数彩花

お姉ちゃんが出演した舞台を観たとき、出



賀数彩花

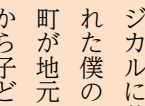
ている人たちがみんなキラキラして見えました。「すごいな！わたしも舞台に立ちたい!!」と思って参加しました。

東員町に住んで2、3年。ミュージカルのことは去年、知りませんでした。じつは息子がミュージカルにすごくあこがれていて、自分が初めてのことに挑戦することで、彼にとってもなにかきっかけになればと、はりきっています！



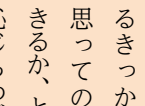
川島裕嗣

引越してきて3年目、市民も巻き込んだミュージカルに惹かれました。ここで生まれた僕の子どもたちにとっては東員町が地元になります。親である自分から子どもたちへ、地元を好きになるきっかけになるのではないかと



川島裕嗣

思っているの初参加。自分にながでできるか、というの根っこにあるので、恥じらわずにがんばりたいです。



川島裕嗣

世界にたくさんさんのファンをもつ定哉さんという画



川島裕嗣

家、自分の住む町にいるのを知らない世代の方もいらっしゃると思います。作品などからもご本人を知ることができませんが、役者が演じる定哉さんの姿を通してその人生にふれられる、というのはミュージカルならではの体験。町のスターを知ること、明日なにかやってみようと思うきっかけにもなれば！

碧の向こうへ Homage for SADAYA ISHIGAKI

出演者からひとこと！

(五十音順・敬称略)



家が、自分の住む町にいるのを知らない世代の方もいらっしゃると思います。作品などからもご本人を知ることができませんが、役者が演じる定哉さんの姿を通してその人生にふれられる、というのはミュージカルならではの体験。町のスターを知ること、明日なにかやってみようと思うきっかけにもなれば！



田近麻友子

前回、観ていただいた方から「元気をもらった」と言われたのがうれしくて、今回2度目の参加です。去年、東員町に越してきて、ミュージカルを通して町の魅力を知りました。同じように、多くの方にもそれを伝えられたらと思います。



千種 妙

定哉さんというすごい画家が意外と身近にいるんだと、観にきていただいた人知ってもらえたら幸せだし、自分もその瞬間にふれられることがうれしいです。わたしは東員町民じゃないけど、町の歴史を知ることが愛着も深まって、いまや自分が住む町よりもずっとよく知ってるかも!?(笑)



畑井 葉月

今回は3回目の参加です。これまで足を引っ張る側でしたが、そろそろわたしも自分の強みや良いところを舞台の上で発揮して、一端を担っていきたくと思っています。



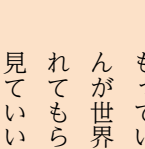
野村恵美子

いい大人が、なにかを伝えたいと思って真面目から真剣に取り組む姿には、ベテランとか初心者とか関係なしに、わたし



水谷祐衣子

戦争やいろいろなことが起こりすぎている世の中で、自分にできることはなんなのかと自問する方も少なくないはず。でも、できることは限られているし、それが役に立つかわからない。考えていくうち、つい自分の中にこもっていつてしまう。今回、定哉さんが世界で活躍されてきた物語にふれてもらえれば、もっと広い世界を見ていいんだ、前向きに進んでいいんだと、きっと心も軽やかになると



水谷祐衣子

思います。



村田 恵

感染症の蔓延や仕事の都合もあって、出たいという気持ちを抑えてきました。それが少しずつ落ち着いてきて、いまからでもできることはないかと考えて劇団への入団を希望し、叶いました。一般公募の方の気持ちもわかるし、劇団の方々が積み上げてきた、がんばってきた姿も知っています。みんなと一緒に素敵な作品をつくりたいです。



山崎 祐衣

大学受験で出演できなかった去年は、試験が近づくと、客席で本番を観ました。かっこよくて、パワフルで、すごく元気



渡部 希

毎年観にきてくださる方に今年の内容を伝える

と勇気をもらえて、受験もがんばろうと思えました。でも参加できずに悔しい思いもしたので、今回はずっと待っていた舞台を思いっきり楽しめようという一生懸命ががんばりたいです。



公演情報

東員ミュージカル第10弾！

『碧の向こうへ』

Homage for SADAYA ISHIGAKI

【日時】

2022年11月19日(土)

17時30分開演(開場45分前)

2022年11月20日(日)

11時30分開演(開場45分前)

16時開演(開場45分前)

【会場】

東員町総合文化センター ひばりホール

【料金】

2500円(全席指定)

・事前にチケットをお求めください。

・就学前のお子様の入場はご遠慮ください。

【お問い合わせ】

東員町総合文化センター

0594-8612816

(受付時間：8時15分～17時)



東員村桑名市学校組合立東員中学校という長い名前の学校があった。最後にその学校を卒業したのは私たちの学年だった。翌年、東員町が誕生したので、学校の正式な名前も変わった。今の東員第一中学校である。

長い名前の学校へ自転車を通った。学校の前の道を、大人たちは員弁街道と呼んでいた。「みえの歴史街道」というインターネットのサイトに、この道が「濃州街道」として案内されている。濃州とは岐阜県の南部をいう。美濃の国まではるばるとつづく街道ということだろう。道は桑名市の三ツ矢橋を起点に、三岐鉄道北勢線に沿うように延びて、阿下喜に至る。電車道の方が街道に沿っているというべきかもしれない。さらに、この道は阿下喜から藤原町内を抜けて、同町山口で巡見街道



濃州街道を走る

のうしゅう

に合流する。

今も、自転車で桑名方面に行くときや、いなべ市を通り抜けるときによく通る道だ。交通は閑散としていて、鄙びた沿道の風情に心が和む。徒歩や自転車で通るのがよく似合う。これが古くからの街道だとは知る由もなかった。道の名前を知ると、これまで見ていた風景が変わる。「みえの歴史街道」の解説を読んだからではない。「濃州街道」を、今、走っているのだと思うことで気分は歴史をさかのぼり、タイムスリップする。その昔、行き交う人々ににぎわった道を自転車で辿る。馬に乗った侍や旅の行人、荷を積んだ馬車、それから、地元のお百姓さんたちとも、ひょっこり出会うような気がする。少し時代を下れば、制服を着て自転車に乗った中学生の自分にも会えるかもしれない。

（東員町・MARIO・BIKE・70歳）

二人でパトロール

九月九日、二人でパトロールをしました。パトロールとは、いろんな人にあいさつをすることです。そこで、らくだ公園へ行きました。

そこには、いつもらくだ公園をそうじしてくれている、女の人がいきました。名前はわかりませんが、草ひきをしてくれて、草をカイカイしているの、こっそり「かいかいさん」とよんでいます。

この日も、草ひきをしてくれていたので、「ありがとう」を言いたくなりました。でも、はずかしいので二人でどうしよう……と、そうだんしました。でも、ゆう気をふりしぼって、「いつも、らくだ公園のそうじをしてくれて、ありがとうございます。」と、二人で声をそろえて言いました。

すると、かいかいさんはえがおでこたえてくれて、やおやさんや交番があったころのむかしの話などを、たくさん教えてくれました。話を聞いたあと、ちょっといっしょに草ひきを手つだいました。そして、さんぽをしている人や、車にのっている人など、いろんな人にもあいさつをしました。

「ありがとう」をつたえられて、よかったと思いました。これからも、二人でパトロールをして、いろんな人にあいさつや「ありがとう」をつたえたいです。

（稲部小学校・2年生・青山こうぎ、三崎しゅり）

▶みんなの心があつたかくなるパトロール、ぜひ二人でつづけていってね！

自然の中の再出発

2020年7月に名古屋からいなべへ引っ越してきて、2年が経ちました。

あまりに自然豊かな土地で暮らすうち、とうとう自宅の脇にある作業小屋を仕事の活動拠点にしていきたいという思いが溢れ、抑えきれなくなっていました。

そこで思いきって会社を退職し、この7月に機械設計事務所を開業しました。個人事業主として、いなべで再出発です。

とはいえ、2年前に引っ越しをしてきたばかりで、土地勘も人脈もない状態でのスタート。ちよっぴり不安があるのも正直なところですが、それでも、トヨタ自動車や関連会社

で17年ほど「自動車部品の製品設計」を行ってきた経験を活かして、多くの方の製品に対する「困りごと」を解消できるような設計者を目指して活動をしていきたいと、希望に満ち溢れています。

最近では、仕事の合間や休日の趣味にしている薪ストーブの「薪活」も、だんだんと板についてきました。まだまだチェンソーの目立てもおぼつかないですが、趣味も仕事も少しずつ、様々なことができるようになってい



オリジナル缶バッジができました！



グッドニュース新聞社のオフィシャル記者証缶バッジが完成！

記事が採用になった小中高生の方々に、全5種類のうちどれかひとつをランダムでプレゼントします。写真の3種類以外はもらってからのお楽しみ。たくさん記事を書いてコンプリートをめざそう！

大学生以上の方も、ご希望でしたら差し上げますので、記事掲載の際は、お気軽にお知らせください。



ければ良いなと感じています。

この自然豊かな土地で、大好きなメカいじりをしながら今後も過ごしていきたいです。

（いなべ市・うどん屋の息子ザルハタです・39歳）

投稿募集

【投稿先】

【お便り】

〒511-0255
三重県員弁郡東員町大字長深 3393
グッドニュース新聞社 記事投稿係

【メール】

info@goodnewspress.co.jp

とういんグッドニュース新聞は、全国から届けられた身近なグッドニュースでつくられる新聞です。健康と活躍のまち東員町から、毎月ポジティブな話題を発信しています。ぜひ、あなたのまわりのグッドニュースをお寄せください！

〈ホームページ〉



〈Facebook〉



〈Twitter〉



投稿の際はタイトル、お名前（ペンネーム）、ご住所、年齢、ご職業をお書き添えください。掲載にあたっては事前にご連絡を差し上げます。

編集室より

号外の発行、オリジナルグッズの制作と、通常の紙面づくりと並行して、いろいろと新しい試みも始めています。もし「こんなこともしてみたらおもしろいんじゃない？」といったアイデアがありましたら、ぜひ聞かせていただけると嬉しいです。

もうすぐ3年ぶりの東員町コスモスまつり。グッドニュース新聞社のブースもありますので、お気軽に遊びにきてくださいね！当日ブースでグッドニュースをお話いただくと、完成したばかりの缶バッジをいち早くゲットできちゃうかも！